

「できる」イメージが大切

紀南P連 川谷さんが「心」を説く の講演会

紀南PTA連合 谷さんが登壇。川谷さん(高垣裕人会長)は4日、熊野市有馬町の防災公園屋根付き練習場で体験型講演会を開催。メンタルプロデューサーの川谷潤太さんが「潜在脳力のふしぎ」人間ってスゴイ!わたしたちをテーマに講演した。

開会にあたり高垣会長が挨拶し、川谷さんはまず「脳はイメージを優先し、イメージした情報だけを集める。『できる』というイメージを持つことが大切で、ちよつとした見方、ちよつとしたコツでイメージは変わる。スプーン曲げもイメージでできる。身長を伸ばすことやダイエットも可能。全てはイメージで、『できる』を伸ばしている」と説明した。「よく口にする『一生懸命』とは『心を込めて』ということ。がむしゃらではなく、心を込めることで集中力が上がる。強豪校の靴やかばんはきつちり揃っている。心を込めてそろえている。大谷菊池、高田は高校時代共通してトイレ掃除をやっていた。心を込めること、表面の

ほこりなどをしっかり見てやる。練習後も靴磨きをやっていた。整頓と清掃はぜひやってみよう」とその効果を解説。実験等を通じて「心を合わせる」ことによる力の結集を説き、「1人で頑張ろうと思っても限界があるが、みんなで心を合わせる」と凄いい力になる。宴会の一本締めなんか

も元気になるし、家族での『いたたまらず』も心を合わせられる。合わせることで『向き』が合い、パワーが凝縮する」と示した。最後は地球上の人口はおおよそ75億。毎日1秒間に1人ずつ会い続けるとして、100年間生きても約30億人にしか出会わず、実際にはもっとも少ない中で今の周囲の人々と会えたのは本当に奇蹟。『ありがとう』という感謝の気持ちは人間の力をすこく引き上げる。仲間やチームメイトとして出会ったことに感謝して頑張つて」などと呼びかけ、来場者に感謝を与えていた。

自転車の安全利用を

年末の交通安全運動 有馬で街頭啓発

年末の交通安全運動期間中の6日朝、熊野地区交通安全全協会や熊野署、熊野市交通安全都市推進協議会、有馬町の市総合グラウンド周辺で自転車安全利用の街頭啓発を行った。

毎月第1月曜日は自転車安全対策強化日のSB(セイフティ・バイシクル)デーになっている。この日は熊野地区安協の岩本会長や熊野署地域交通課の佐野太介課長、署員、紀南地域活性化局、市役所が参加した。自転車や登校する生徒や通行人に、自転車の正しい乗り方のチラシや啓発物品を手渡し、自転車安全利用五則▼自転車は、車道が原則、歩道

は例外▼車道は左側を通行▼歩道は歩行者優先で、車道寄り者を徐行▼安全ルールを守る(飲酒運転・二人乗り・並進の禁止、夜間はライトを点灯、交差点での信号遵守と一時停止・安全確認)▼子供はへ



【講演する川谷さん】



【挨拶する高垣会長】



【子育てへのヒントを探る参加者】



【自転車安全利用を啓発】